

平成 31 年度

事業計画

平成 31 年

公益財団法人 五島美術館

◆事業計画書

I. 五島美術館(公益目的事業①)

1. 展示事業

1-1. 展覧会名とその概要

(1) [館蔵]春の優品展 ―和と漢へのまなざし―

2019年4月6日[土]―5月6日[月]

館蔵品の中から、『和漢朗詠集』と、その撰者・藤原公任に関連する古筆、あわせて日本・中国を題材とした絵画を選び展観。和歌と漢詩文の世界への憧れが、創作の源泉となり豊かな美の数々を生み出してきたことを紹介すべく、和と漢へのまなざしを映した名品約40点を展示する(会期中一部展示替あり)。

特別展示予定＝国宝「源氏物語絵巻」4月27日[土]―5月6日[月]

一般1000円／高・大学生700円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(4月29日・5月6日は開館)

(2) [館蔵]近代の日本画展

2019年5月11日[土]―6月16日[日]

館蔵の近代日本画コレクションから、「人物表現」を中心に、横山大観、下村観山、川合玉堂、上村松園、鏑木清方、松岡映丘、安田靉彦、前田青邨など、明治から昭和にかけての近代日本を代表する画家の作品約40点を選び展観。宇野雪村コレクションの華麗な石印材も同時公開。

一般1000円／高・大学生700円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

(3) [館蔵]夏の優品展 ―動物のかたち―

2019年6月22日[土]―8月4日[日]

古来、動物たちの造形は豊穰や栄達、そして長寿などを願う吉祥の象徴でもあった。館蔵品の中から約50点の名品を選び、古代から近代まで、愛らしい鳥たちや小動物、ほのぼのとした牛・馬、水辺の生き物など絵画や工芸に表された様々な動物の姿を一堂に紹介する(会期中一部展示替あり)。

一般1000円／高・大学生700円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(7月15日は開館)、7月16日[火]

館内整備のため休館＝2019年8月5日[月]―8月30日[金]

(4) [館蔵] 秋の優品展 ―筆墨の躍動―

2019 年 8 月 31 日 [土]—10 月 20 日 [日]

館蔵品の中から、水墨画や墨跡、近代の書画を中心に、日本・中国の名品約 40 点を展示。古くより連綿と受けつがれてきた筆墨表現のうち、人々の目に驚きと彩りを与えた躍動感ある作品に注目。紙絹を舞台に心の趣くまま展開された、即興の妙を紹介する(会期中一部展示替あり)。館蔵の日本陶磁も同時公開。

特別展示予定＝国宝「紫式部日記絵巻」10 月 12 日 [土]—10 月 20 日 [日]

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(9 月 16 日・9 月 23 日・10 月 14 日は開館)、9 月 17 日 [火]、
9 月 24 日 [火]、10 月 15 日 [火]

(5) [特別展] 美意識のトランジション ―十六から十七世紀にかけての東アジアの書画工芸―

2019 年 10 月 26 日 [土]—12 月 8 日 [日]

揺れ動く東アジアの盛んな交易と移り行く社会構造を背景に、爛熟する造形と清新な美意識が交錯する 16～17 世紀に焦点をあて、文化的に見ても過渡期(トランジション)にあった時代の姿を描く。多彩な技法と表現に満ちた東アジア数十年間の美の諸相を、伝来する絵画・書・工芸・書物の名品を通じて紹介する(会期中一部展示替あり)。

一般 1200 円／高・大学生 900 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(11 月 4 日は開館)、11 月 5 日 [火]

レセプション＝2019 年 10 月 25 日 [金]

記念講演会＝11 月 9 日 [土] 今井 敦氏(東京国立博物館)

(6) [館蔵] 茶道具取合せ展

2019 年 12 月 14 日 [土]—2020 年 2 月 16 日 [日]

展示室に当館茶室「古経楼」「松寿庵」「富士見亭」の床の間原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションから約 70 点を選び展示(会期中一部展示替あり)。懷石道具・炭道具のほか、長次郎をはじめとする楽家代々の楽茶碗など、名物茶道具を中心に道具の取合せを展観する。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(1 月 13 日は開館)、12 月 23 日 [月]—1 月 4 日 [土]、1 月 14 日 [火]

(7) [館蔵] 中国の陶芸展

2020 年 2 月 22 日 [土]—3 月 29 日 [日]

漢時代から明・清時代にわたる館蔵の中国陶磁器コレクション約 60 点を展観。戦国時代の計量道具から、唐三彩の壺、宋時代の砧青磁、明時代の青花・五彩まで、時代順に展示し、2000 年にわたる中国のやきものの歴史を展望する。特集展示として館蔵の古鏡コレクションも同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(2 月 24 日は開館)、2 月 25 日 [火]

■大東急記念文庫創立 70 周年記念特別展示〈展示室 2〉

大東急記念文庫は、1949 年に東京急行電鉄の元会長五島慶太が設立した日本・東洋の古典籍を収蔵する特殊文庫である。2019 年、創立 70 周年を迎えることを記念し、「展示室 2」において文庫のコレクションをテーマごと 4 部に分けて、それぞれ約 20 点を特別展示する（会期中一部展示替あり）。また、会期中にトークイベントや能のワークショップを行う。

〔第 1 部〕大東急記念文庫の精華 ―絵画、古写経、書物、名家の筆跡―

2019 年 4 月 6 日〔土〕―5 月 6 日〔月〕

〔第 2 部〕海外との交流 ―無学祖元、王陽明の墨跡や高僧像―

2019 年 5 月 11 日〔土〕―6 月 16 日〔日〕

〔第 3 部〕書誌学展Ⅰ 経籍訪古志の名品を中心に ―国宝「史記」をはじめとする漢籍―

2019 年 6 月 22 日〔土〕―8 月 4 日〔日〕

〔第 4 部〕書誌学展Ⅱ 近代そして現代へ ―嵯峨本、五山版の名品と古辞書―

2019 年 8 月 31 日〔土〕―10 月 20 日〔日〕

1-2. 入館者数(目標)

2019 年度の入館者数は合計で 6 万 5 千人の獲得を目標とする。この目標は過去 3 年間の実績の平均値に対し 5% の増加を目指す高い水準である。これまで取り組んできた告知面の強化や外部との連携などをさらに進めることにより目標達成に取り組んでいく。

(単位: 入館者 = 人、開館日 = 日)

	有料	無料	計	入園者	合計	開館日	一日平均
(1) 館蔵「春の優品展―和と漢へのまなざし―」〈2019 年 4 月 6 日―5 月 6 日〉	7,196	644	7,840	420	8,260	28	295
(2) 館蔵「近代の日本画展」〈2019 年 5 月 11 日―6 月 16 日〉	8,768	512	9,280	256	9,536	32	298
(3) 館蔵「夏の優品展 ―動物のかたち―」〈2019 年 6 月 22 日―8 月 4 日〉	5,054	836	5,890	152	6,042	38	159
(4) 館蔵「秋の優 n 品展 ―筆墨の躍動―」〈2019 年 8 月 31 日―10 月 20 日〉	6,751	602	7,353	258	7,611	43	177
(5) 特別展「美意識のトランジション ―十六から十七世紀にかけての東アジアの書画工芸―」 〈2019 年 10 月 26 日―12 月 8 日〉	14,742	2,886	17,628	780	18,408	39	472
(6) 館蔵「茶道具取合せ展」〈2019 年 12 月 14 日―2020 年 2 月 16 日〉	7,695	720	8,415	225	8,640	45	192
(7) 館蔵「中国の陶芸展」〈2020 年 2 月 22 日―3 月 29 日〉	5,440	480	5,920	224	6,144	32	192
【合 計】	55,646	6,680	62,326	2,315	64,641	257	252

2. 調査・研究・保存事業

(1) 美術品の調査・研究

美術品の調査・研究を継続し、新規収蔵品等を中心に調査を進める。より正確なデータベースを構築するため、デジタルアーカイブへの取組みを進める。

(2) 蔵書・写真の整理

蔵書および写真の整理と登録を進める。

(3) 美術品の補修

館蔵品のうちから、特に傷みの著しいもの、出陳頻度の高いものを優先し、その修理を行う。本年度は重要文化財「即休契了墨跡 餞別偈」を修復予定。

(4) 美術品の保存

今後の保存対策のため、収蔵庫および展示室の環境測定を実施し、種々データを集める。また収蔵庫内の収納棚の保存環境および利用時における安全性を見直し、より効率的な収納ができる保存環境を目指す。作品を保護するための包裂や箱、刀剣の鞘などを順次修理し、保存・管理の安全性を向上させる。併せて防虫・防黴のため IPM(総合的有害生物管理)を実施する。

(5) 美術品の貸出

他所の美術館・博物館への館蔵品の貸出要望に対しては、趣旨・開催期間などを十分検討し、保存上の留意をしつつ、社会教育の発展・普及の観点から貸出を許可し、出品する。

(6) 会議・学会・研修会への参加

美術品にかかわる各種会議・学会・研修会へ参加し、研究成果を発表する。

- ・ 全国博物館大会、全国美術館会議、私立美術館会議、美術史学会、東洋陶磁学会、漆工史学会、茶の湯文化学会、書学書道史学会、文化財保存修復学会(大会出席)。
- ・ 各種研究会および研修会参加(染織文化史研究会、茶書研究会、文化庁企画展示セミナー、日本書道史研究会、日本博物館協会研究会、墨蹟研究会、画賛研究会、源氏絵データベース研究会)。
- ・ 科学研究費助成事業への参加。

(7) 博物館界・学会などへの協力

当館の加入する日本博物館協会、東京都博物館協議会、東洋陶磁学会、漆工史学会、全国美術館会議などの活動に積極的に協力するとともに、各種委員会や美術普及行事、学術文化の交流に関して専門学芸員の派遣など、当館の役割を果たしていく。また、受入れ態勢の許す限り博物館学および同実習教育を実施する。

(8) ホームページ等の運営

五島美術館の公式ホームページ(URL=<https://www.gotoh-museum.or.jp/>)を充実し、インターネット上での美術館や収蔵品の紹介、展覧会の広報活動等を展開するために、コンテンツの充実を目指す。また、フェイスブック、ツイッターなど SNS の有効活用を促進する。

(9) 研究紀要の編纂

研究活動の成果を紀要としてまとめる。執筆者は学芸部を中心とし、資料紹介や調査報告を含めた専門性の高い論考に、美術館・文庫の活動報告を合わせた体裁とする。

(10) 日本伝統工芸展への協賛

公益財団法人日本工芸会他の主催する同展への協賛を通じ、日本における伝統工芸の健全な発展に寄与する。

(11) 国等各種公共機関・団体・大学への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の美術教育事業、専門機関への助言、職員の派遣等、美術館で必要と認められる対外活動を行う。

3. 普及事業

(1) ギャラリートーク(展示解説) 一般入館者対象(年間★回開催)

・[館蔵]春の優品展 ―和と漢へのまなざし―

----- 2019年4月11日、17日、24日、27日、30日、5月2日、5日の7回

・[館蔵]近代の日本画展

----- 2019年5月16日、21日、6月5日、13日の4回

・[館蔵]夏の優品展 ―動物のかたち―

----- 2019年6月26日、7月4日、25日、8月1日の4回

・[館蔵]秋の優品展 ―筆墨の躍動―

----- 2019年9月3日、12日、18日、10月1日、14日、20日の6回

・[特別展]美意識のトランジション ―十六から十七世紀にかけての東アジアの書画工芸―

----- 未定 2019年★月★日、★日、★月★日、★日、★日の★回

・[館蔵]茶道具取合せ展

----- 2019年12月19日、2020年1月9日、15日、22日、2月6日、11日の6回

・[館蔵]中国の陶芸展

----- 2020年2月27日、3月25日の2回

＊上記展覧会の展示品を学芸部が解説する。

(2) 茶会(当館主催)―茶の友会会員対象

・第1回=2019年11月14日～17日の4日間

・第2回=2020年3月12日～15日の4日間

＊上記茶会に使用する美術品について学芸部が解説する。

(3) 陶芸講座(当館主催)―美の友会会員対象

・第1回=2019年5月25日・26日 予定 定員(各日35名)

・第2回=2019年9月28日・29日 予定 定員(各日35名)

・第3回=2020年1月25日・26日 予定 定員(各日35名)

(4) 美の友会月例美術講座(当館主催)―美の友会会員対象

美の友会会員を対象に下記のシリーズを、連続講座(各月2～3回)として(本年度29回)開催する。各回ともシリーズのテーマに即した主題を掲げ、当館の収蔵品やスライド映写をまじえてわかりやすい講座を行なう。

◇工芸鑑賞シリーズⅣ「美意識のトランジション」

秋に開催予定の特別展「美意識のトランジション」に関連した連続講座。中国では明から清へと王朝の交代があり、また日本では、織豊時代を経て徳川幕府が成立、その間には南蛮文化の

到来など、16～17世紀は海を介した交流と大きな転換の過渡期(トランジション)であった。アジア諸国を中心に、激動の時代を背景に表出した美の諸相を、工芸史(漆芸・染織・陶芸)の分野から考察し、スライドにて作品を鑑賞する(8月・11月・1月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 福島 修(第1・2・7回)・佐藤留実(第3・4・8回)・砂澤祐子(第5・6・9回)〉

第1回	2019年4月6日[土]	「移り行く東アジア」
第2回	5月4日[土]	「爛熟する万暦漆芸」
第3回	6月1日[土]	「テキスタイル:素材のトランジション」
第4回	7月6日[土]	「陣羽織:際立ちのファッション」
第5回	9月7日[土]	「陶磁器におけるトランジショナル様式とは何か」
第6回	10月5日[土]	「中国・朝鮮・日本の陶磁器における交流」
第7回	12月7日[土]	「16～17世紀:転換期東アジアの漆芸」
第8回	2020年2月1日[土]	「16～17世紀:貿易染織の影響」
第9回	3月7日[土]	「16～17世紀:中国・朝鮮・日本の陶磁器の諸相」

◇書跡鑑賞シリーズXIV「館蔵書跡・拓本でたどる中国書道史」

中国の書は、古代文字のひとつである甲骨文が誕生して以降、実に多くの形式や書振りが生まれた。それらは模本・拓本などの複製技術によって伝播され、一部は日本の書の発展にも影響を与えている。この講座では、現代書の巨匠・宇野雪村氏(1912～95)から寄贈された名品の数々を紹介し、中国の書の歴史を俯瞰する。落款・用印・素材・拓調などといった鑑賞のポイントにも触れ、書の美しさを堪能する(「古典籍鑑賞シリーズI」と交互開催による変則日程)。

〈担当＝五島美術館学芸部 尾川明穂〉

第1回	2019年4月13日[土]	「古代文字と隸書の「用の美」」
第2回	6月8日[土]	「書聖・王羲之への憧れ」
第3回	9月14日[土]	「法帖出版と「明末浪漫派」」
第4回	12月14日[土]	「王羲之離れと近代の書」
第5回	2020年2月8日[土]	「日本の書への影響」

◇古典籍鑑賞シリーズI「江戸の書物でくずし字を読む」

大東急記念文庫には江戸時代に出版された書物や、当時の人の筆跡が数多く所蔵されている。それらの本文は変体仮名を含むくずし字や草書体の漢字で記されている。本講座は、比較的読みやすい分野の書物から最高難度の手紙文まで、大東急記念文庫の所蔵品を使ってくずし字を読む練習をする連続講座である。書跡や画賛を読み解く助けとなるよう構成し、初心者も歓迎(「書跡鑑賞シリーズXIV」と交互開催による変則日程)。

〈担当＝大東急記念文庫学芸部 長田和也〉

第1回	2019年5月11日[土]	「江戸の笑い話」
-----	---------------	----------

第2回	7月13日[土]	「江戸の随筆」
第3回	10月12日[土]	「江戸の戯作」
第4回	2020年1月11日[土]	「江戸の手紙①」
第5回	3月21日[土]	「江戸の手紙②」

◇絵画鑑賞シリーズⅩ「源氏絵と源氏物語絵巻」

『源氏物語』を絵画化した「源氏絵」は、平安時代以来、人々に愛好され、絵巻・色紙・扇・屏風など様々な画面形式に、流派を越えて描かれてきた。本講座では代表的な作品を取り上げ、特徴、制作背景、美術史上の位置づけ等、多様な観点から「源氏絵」の豊かな世界を紐解いていく。また後半は、現存する国宝「源氏物語絵巻」全19画面の概要を次年度にかけて順次紹介していく予定(8月・11月は休講。次年度以降も継続予定)。

〈担当＝五島美術館学芸部 下山來夏(第1～6回)・渡川直樹(第7～10回)〉

第1回	2019年4月20日[土]	「源氏絵とその系譜」
第2回	5月18日[土]	「中世と源氏絵—絵巻・扇絵・色紙」
第3回	6月15日[土]	「権力の過渡期と源氏絵—土佐光吉・狩野山楽」
第4回	7月20日[土]	「古典憧憬と新たな創造—俵屋宗達・岩佐又兵衛」
第5回	9月21日[土]	「源氏絵最盛期を経て—狩野探幽・土佐光起」
第6回	10月19日[土]	「源氏絵の変奏—柳橋水車図屏風・見立て源氏絵ほか」
第7回	12月21日[土]	「源氏絵の原点—国宝絵巻の世界」
第8回	2020年1月18日[土]	「国宝 源氏物語絵巻 蓬生・関屋」
第9回	2月15日[土]	「国宝 源氏物語絵巻 柏木」
第10回	3月28日[土]	「国宝 源氏物語絵巻 横笛・鈴虫」

(5) 青少年向け普及講座

小学生や中学生を対象に、美術や日本文化への理解を深めるための各種普及講座を開設する。現在予定している講座としては以下の通り。

- ① 「こども美術講座 日本画を知ろう」 2019年6月 2日[日]
- ② 「こども美術講座 色んな筆、楽しい筆」 8月 4日[日]
- ③ 小・中学校等へ出張講義に赴く予定(日程未定)

(6) ミュージアム・コンサート

音楽を通じ、地域住民はじめ来館者に対して美術館の楽しみ方の一面を提示する。

2019年7月3日[水]	クアルテット・リゾナンツァによる弦楽四重奏演奏会
9月25日[水]	長唄演奏会—和のこころを聴く

(7) 茶室公開

公開日＝「館蔵 近代の日本画展」期間中(2019年5月29日[水])

「館蔵 茶道具取合せ展」期間中(2020年1月29日[水])

入館者を対象に、通常非公開の茶室「古経楼」「富士見亭」の解説を学芸部が行う。

(8) 東急グループとの連携事業

東急グループとの連携事業を推進することにより、美術館や展覧会に対する理解を深める様々な機会を提供する。

- ① 特別鑑賞会「東急グループ感謝のつどい」開催への協力
- ② 東急グループ主催の社会貢献活動(とうきゅうキッズプログラム、キラリプラスカレッジ等)への協力
- ③ 東急文化村「MY Bunkamura」とのタイアップ企画の実施
- ④ 「東急ロイヤルクラブ」との連携イベントの実施
- ⑤ 東急グループ「五島美術館名品集」カレンダーの制作監修

(9) 他館等との連携事業

展示内容の親和性が高い根津美術館、三井記念美術館、近隣の静嘉堂文庫美術館、世田谷美術館をはじめ、他の美術館、博物館など文化施設等との連携事業を積極的に推進する。

(10) インバウンド需要への対応

訪日外国人観光客の増加によるインバウンド需要の拡大に対応するため、館内案内サインの多言語化や音声自動翻訳機器の導入など、館内施設やホームページの表記等の具体的対策を進めていく。

以 上

Ⅱ. 大東急記念文庫(公益目的事業②)

1. 文庫事業

(1) 図書保存

- ・文庫収蔵庫内の和古書と参考書誌、図書資料等との分離収納作業を継続する。
- ・本年度も引き続き、所蔵資料の保存状態を調査し、修理・補修リストを作成する。
- ・収蔵庫内の防虫、防塵、防湿、防災には万全を期し、予防策として本年も IPM を実施する。新収資料の防虫には特に留意する。
- ・不慮の災害に備え、資料の写真撮影などの複本作りを継続的に進める。本年度も『大般若波羅蜜多經』(鎌倉中期写本)等を撮影する。
- ・収蔵庫内入口の扉の修理を行なう。

(2) 図書修理

本年度は大規模な修理は行わないが、綴じ紐や糊離れなどの簡便な処置を行う。

(3) 図書収集

研究・閲覧に資する参考資料(辞典、叢書、全集、記録類等)を購入する。

(4) 図書調査

最明寺(足柄上郡大井町)等、他機関収蔵の古典籍資料調査を行なう。

(5) 図書閲覧

大学生以上の学術研究者を対象に閲覧業務を行なう。

(6) 研究発表

図書調査・研究活動等に基づき、書誌学、文化史学、国文学、美術史学、保存科学等の研究の成果を機関誌「かがみ」その他、学術専門誌に発表する。

(7) 出版物の編集・刊行・頒布・委託出版

- ・継続刊行中である「大東急記念文庫善本叢刊中古・中世篇」の第 29 回配本第 15 巻「国史・古記録・寺誌」、第 30 回配本第 17 巻「美術」の刊行準備をする。
- ・機関誌「かがみ」第 50 号(創立 70 周年記念特集号)を編集刊行する。
- ・文庫創立 70 周年にちなみ、所蔵品の漢籍の名品を中心とした小冊子を編集刊行する。
- ・既刊の講演録、影印本、マイクロフィルム等を頒布する。

(8) 普及

- ・各種団体(大学・研究会・図書館等)の要請による研究会、展示説明会等があれば、これに応じる。
- ・文庫刊行の出版物等を友好機関に寄贈する。また、友好機関、個人から受贈した出版物等

は、閲覧研究に供するとともに、整理して保存する。

・各種団体等・個人から多数の撮影、出版、放映、翻印等の許可申請があるが、厳しく検討して許可する。

(9) 展示

五島美術館の展示に協力するとともに、他館からの出陳の要請は検討の上、貸し出す。

(10) 国等各種公共機関・団体、大学への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の研究会等への参加、助言、職員の派遣等、文庫の事業運営上必要と認められる対外活動を行なう。

(11) その他

五島美術館「展示室 2」で開催する文庫創立 70 周年記念展を「特殊文庫連携展示」と位置づけ、展示期間中、神奈川県立金沢文庫、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫、公益財団法人静嘉堂 静嘉堂文庫、公益財団法人東洋文庫と連携を図り、チラシ作成、イベント開催、雑誌『書物学』（勉誠出版）への寄稿等による展示の周知活動等を行う。

以 上

収支予算書

2019年 4月 1日から2020年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基 本 財 産 運 用 益	[11,530,000]	[11,530,000]	[0]
特 定 資 産 運 用 益	[10,000]	[10,000]	[0]
公 益 事 業 収 益	[137,354,000]	[136,074,000]	[1,280,000]
受 取 補 助 金 等	[1,740,000]	[0]	[1,740,000]
受 取 寄 付 金	[216,692,000]	[198,970,000]	[17,722,000]
雑 収 益	[70,000]	[70,000]	[0]
経常収益計	367,396,000	346,654,000	20,742,000
(2) 経常費用			
事 業 費	[341,081,000]	[325,394,000]	[15,687,000]
管 理 費	[27,692,000]	[20,427,000]	[7,265,000]
経常費用計	368,773,000	345,821,000	22,952,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,377,000	833,000	△ 2,210,000
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,377,000	833,000	△ 2,210,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
指 定 正 味 財 産 へ 振 替	[3,400,000]	[3,000,000]	[400,000]
経常外費用計	3,400,000	3,000,000	400,000
当期経常外増減額	△ 3,400,000	△ 3,000,000	△ 400,000
当期一般正味財産増減額	△ 4,777,000	△ 2,167,000	△ 2,610,000
一般正味財産期首残高	1,011,026,859	1,013,193,859	△ 2,167,000
一般正味財産期末残高	1,006,249,859	1,011,026,859	△ 4,777,000
II 指定正味財産増減の部			
一 般 正 味 財 産 か ら の 振 替 額	[3,400,000]	[3,000,000]	[400,000]
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	[△ 69,692,000]	[△ 68,970,000]	[△ 722,000]
当期指定正味財産増減額	△ 66,292,000	△ 65,970,000	△ 322,000
指定正味財産期首残高	3,796,559,621	3,862,529,621	△ 65,970,000
指定正味財産期末残高	3,730,267,621	3,796,559,621	△ 66,292,000
III 正味財産期末残高	4,736,517,480	4,807,586,480	△ 71,069,000

収支予算書

2019年 4月 1日から2020年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[11,530,000]	[11,530,000]	[0]
基本財産受取利息	9,426,000	9,426,000	0
基本財産受取配当	2,104,000	2,104,000	0
特定資産運用益	[10,000]	[10,000]	[0]
特定資産受取利息	10,000	10,000	0
公益事業収益	[137,354,000]	[136,074,000]	[1,280,000]
展示事業収益	57,038,000	55,353,000	1,685,000
調査研究事業収益	7,670,000	8,750,000	△ 1,080,000
普及事業収益	20,500,000	20,500,000	0
文庫事業収益	1,700,000	1,700,000	0
カレンダー収益	40,346,000	39,671,000	675,000
売店収益	10,100,000	10,100,000	0
受取補助金等	[1,740,000]	[0]	[1,740,000]
受取国庫補助金	1,200,000	0	1,200,000
受取地方公共団体補助金	540,000	0	540,000
受取寄付金	[216,692,000]	[198,970,000]	[17,722,000]
受取寄付金	147,000,000	130,000,000	17,000,000
受取寄付金振替額	69,692,000	68,970,000	722,000
雑収益	[70,000]	[70,000]	[0]
受取利息	50,000	50,000	0
有価証券運用益	10,000	10,000	0
雑収益	10,000	10,000	0
経常収益計	367,396,000	346,654,000	20,742,000
(2) 経常費用			
事業費	[341,081,000]	[325,394,000]	[15,687,000]
役員報酬	6,480,000	7,179,000	△ 699,000
給料手当	82,739,000	93,474,000	△ 10,735,000
臨時雇賃金	16,633,000	11,541,000	5,092,000
退職給付費用	13,130,000	3,224,000	9,906,000
福利厚生費	17,174,000	15,740,000	1,434,000
会議費	346,000	340,000	6,000
旅費	202,000	200,000	2,000
交通費	102,000	100,000	2,000
通信搬却費	5,177,000	5,060,000	117,000
減価償却費	70,399,000	69,348,000	1,051,000
消耗什器備品費	1,556,000	997,000	559,000
消耗品費	1,253,000	925,000	328,000
修繕費	6,346,000	5,000,000	1,346,000
修理費	2,183,000	4,800,000	△ 2,617,000
印刷製本費	14,258,000	13,439,000	819,000
宣伝広告料	8,556,000	6,100,000	2,456,000
光熱費	7,290,000	7,225,000	65,000
保険料	864,000	864,000	0
諸謝金	150,000	150,000	0
租税公課	4,662,000	4,620,000	42,000
庭園管理費	5,046,000	5,000,000	46,000
委託費	13,475,000	13,352,000	123,000
展覧会費	14,879,000	10,230,000	4,649,000
催物費	15,456,000	14,850,000	606,000

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
調 査 研 究 費	6,488,000	5,800,000	688,000
雑 費	1,119,000	1,110,000	9,000
カ レ ン ダ ー 制 作 費	18,129,000	17,800,000	329,000
シ ョ ッ プ 原 価	6,989,000	6,926,000	63,000
管 理 費	[27,692,000]	[20,427,000]	[7,265,000]
役 員 報 酬	4,320,000	3,700,000	620,000
給 料 手 当	12,121,000	8,685,000	3,436,000
退 職 給 付 費	1,459,000	76,000	1,383,000
福 利 厚 生 費	2,843,000	1,010,000	1,833,000
会 議 費	310,000	310,000	0
旅 費 交 通 費	110,000	110,000	0
交 際 費	210,000	210,000	0
通 信 運 搬 費	338,000	408,000	△ 70,000
減 価 償 却 費	3,706,000	3,661,000	45,000
消 耗 什 器 備 品 費	53,000	53,000	0
消 耗 品 費	105,000	105,000	0
印 刷 製 本 費	64,000	64,000	0
光 熱 水 料 費	379,000	375,000	4,000
諸 謝 金 費	1,464,000	1,450,000	14,000
雑 費	210,000	210,000	0
経常費用計	368,773,000	345,821,000	22,952,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,377,000	833,000	△ 2,210,000
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,377,000	833,000	△ 2,210,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
指 定 正 味 財 産 へ 振 替	[3,400,000]	[3,000,000]	[400,000]
受 取 寄 付 金 振 替 額	3,400,000	3,000,000	400,000
経常外費用計	3,400,000	3,000,000	400,000
当期経常外増減額	△ 3,400,000	△ 3,000,000	△ 400,000
当期一般正味財産増減額	△ 4,777,000	△ 2,167,000	△ 2,610,000
一般正味財産期首残高	1,011,026,859	1,013,193,859	△ 2,167,000
一般正味財産期末残高	1,006,249,859	1,011,026,859	△ 4,777,000
II 指定正味財産増減の部			
一 般 正 味 財 産 か ら の 振 替 額	[3,400,000]	[3,000,000]	[400,000]
受 取 寄 付 金 振 替 額	3,400,000	3,000,000	400,000
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	[△ 69,692,000]	[△ 68,970,000]	[△ 722,000]
受 取 寄 付 金	△ 69,692,000	△ 68,970,000	△ 722,000
当期指定正味財産増減額	△ 66,292,000	△ 65,970,000	△ 322,000
指定正味財産期首残高	3,796,559,621	3,862,529,621	△ 65,970,000
指定正味財産期末残高	3,730,267,621	3,796,559,621	△ 66,292,000
III 正味財産期末残高	4,736,517,480	4,807,586,480	△ 71,069,000